

国宝 阿彌陀三尊像のうち勢至菩薩像（蓮花三昧院蔵）



震宝館だより

題字・翁野光義師

震宝館だより 第139号
令和4年7月10日発行
和歌山県伊都郡高野町高野山3006
公益財団法人高野山文化財保存会
高野山霊宝館
電話0736-56-2029
URL <http://www.reihokan.or.jp>

利用案内

■開館時間
5月1日～10月31日 8時30分～17時30分
11月1日～4月30日 8時30分～17時00分
■休館日 年末年始のみ

■拝観料 大人 1300円
高・大学生 800円
小・中学生 600円
高野町に住民票がある方、高野町内の学校に在籍する学生の方は入館無料です。
（住所記載の証明書提示要）
■専用駐車場あり

第43回大宝蔵展 高野山の名宝

7月16日(土)～10月10日(月・祝)

第139号 目次

- 大宝蔵展のご案内……………2～3
- 高野山の古建築 第三十九回……………4
- 高野山の生き物 第五回……………5
- 古絵図で巡る高野山探訪（その十四）……………6～7
- 高野山霊宝館からのお知らせ……………8

毎月21日（弘法大師の日）ご来館の方にプレゼントあり！

高野山霊宝館からのお知らせ



ミュージアム法話開催風景（高野山本山布教師 神保博舟師）

今後の開催予定
7月23日／8月6日／8月27日／
9月10日／10月22日／11月26日
いずれも土曜日、13時より開催。
※参加費無料ですが、拝観料が必要
となります。予定はコロナの感染状
況などで変更する場合があります。

◎ミュージアム法話 開催

「ミュージアム法話（お坊さんによる法話と展示解説）」は、令和2年度よりコロナ禍のため一時中断していましたが、今年度は再開し、5月14日(土)、6月11日(土)に開催いたしました。

◎展覧会開催予定

・10月15日(土)～令和5年1月15日(日) 秋期企画展「仏を護る入れ物（納める・容れる・包む）」(予定)
※12月28日(水)～1月4日(水)休館
・令和5年1月21日(土)～4月9日(日) 冬期平常展「密教の美術」(予定)

◎文化財保存修理事業

●重要文化財（美術工芸品）紙本著色十巻抄ほか1件保存修理事業
平成29年度より5カ年計画で行われていた「十巻抄」（鎌倉時代 圓通寺蔵）の保存修理が完了し、再収蔵しました。その後、その一部を、情報公開として4月10日(土)まで特別展示を行いました。



重要文化財十巻抄 修理前



重要文化財十巻抄 修理後

◎友の会会員募集

●会員証提示で会員本人様のみ霊宝館と金堂・大塔の拝観無料
●霊宝館発行の機関誌「霊宝館だより」送付
＜年会費＞
一般会員（個人） 3,000円
賛助会員（法人） 30,000円
皆様のご入会をお待ちしております。

●重要文化財 高野山奥之院出土品 比丘尼法葉経塚出土品保存修理事業

令和3年度事業として行われていた「比丘尼法葉願文」（平安時代 金剛峯寺蔵）の保存修理が完了し、再収蔵しました。その後、4月10日(日)まで特別展示を行いました。

◎友の会会員限定 秋季金剛界結縁灌頂 入壇のお知らせ

高野山金堂における秋季金剛界結縁灌頂開壇に際し、霊宝館友の会会員限定で募集させていただきます。
開壇日
令和4年10月1日(土)～3日(月)

◎記事の訂正

令和2年4月13日発行の「震宝館だより」134号に誤りがございました。左記のとおり、訂正させていただきます。
5頁「高野山の古建築」第三十六回「(誤)秀直 (正)忠直」



結縁灌頂三昧耶戒

お問い合わせ先 高野山霊宝館 TEL 0736-56-2029(代)



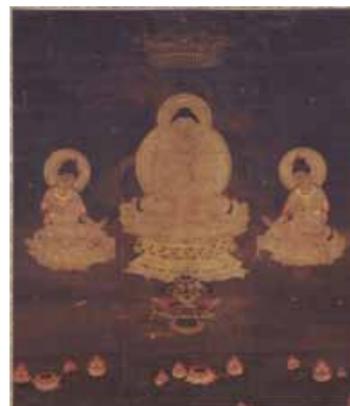
重文 舞楽装束類のうち梅松文様水干 室町時代 金剛峯寺



重文 銅五鈷鈴（伝道範所持） 中国唐時代 正智院



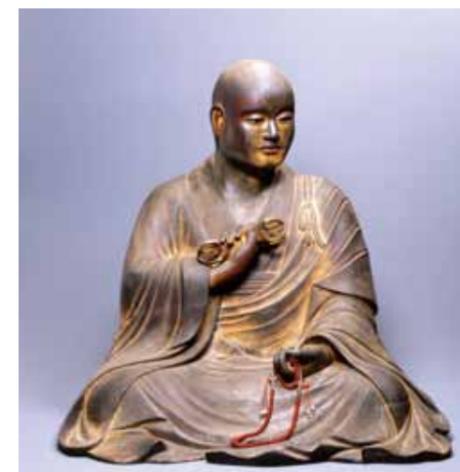
重文 一字金輪曼荼羅図 鎌倉時代 遍照光院【後期】



国宝 阿弥陀三尊像 平安・鎌倉時代 蓮花三昧院【前期】
天変地異と浄土図の2つの特徴を合わせ持つ阿弥陀三尊像。三尊は光背から台座まで黄一色で彩色されている。



重文 八字文殊曼荼羅図 鎌倉時代 正智院【後期】
天変地異の除災などを祈る修法の本尊。中央の獅子に乗る文殊菩薩は八つの髻を結び、真言も八字で表されることから八字文殊という。



未指定 弘法大師坐像（萬日大師像） 室町時代 金剛峯寺
左を向いた珍しい大師像。
昔、約30年間この大師像を拜んでいた僧の夢枕に、大師が現れ「萬日の功真実なり」と告げた。翌朝、この大師像の元に向かうと左を向いていたという。

ミュージアムトーク

日程：8月20日(土)、9月3日(土)

各14時～ 1時間程度

先着20名様 受付8時半～

※詳細は震宝館HPにてご確認ください。

コロナの感染状況により中止する場合があります。

今後の展覧会

令和四年度 秋期企画展

「仏を護る入れ物」納める・容れる・包む」

令和4年10月15日(土)～令和5年1月15日(日)

※12月28日(水)～1月4日(水)休館

令和4年7月16日(土)～10月10日(月・祝)
前期 7月16日(土)～8月28日(日)
後期 8月30日(火)～10月10日(月・祝)
会期中無休

仏教には、阿弥陀三尊や不動明王三童子といった、定まった数の仏さまを表す仏像、仏画が多数あります。また、高野山信仰は、五十六億七千万年後、弥勒菩薩が下生するまで、弘法大師空海は奥之院御廟に入定し、衆生をあまねく救済するという、非常に大きな数字に関わりがあります。そこで、今回は数字にまつわる高野山の文化財を紹介します。どのような数字が展示品に関わっているのか、ぜひご拝観ください。

主な展示品

- 彫刻
 - 未指定 弘法大師坐像（萬日大師像） 金剛峯寺
- 絵画
 - 国宝 阿弥陀三尊像 蓮花三昧院【前期】
 - 重文 五大虚空蔵菩薩像 西南院【後期】
 - 重文 六字尊像 宝寿院【前期】

- 重文 八字文殊曼荼羅図 正智院【後期】
- 重文 一字金輪曼荼羅図 遍照光院【後期】

- 書跡
 - 国宝 大字法華経 龍光院【前期】
 - 国宝 紺紙金銀字一切経（中尊寺経） 金剛峯寺【後期】
 - 重文 紺紙金字一切経（荒川経） 金剛峯寺【前期】
 - 重文 法華一品経 金剛峯寺【前後期で展示替】

- 工芸
 - 重文 金銅三鈷杵（伝覚鑊所持） 宝寿院
 - 重文 銅五鈷鈴（伝道範所持） 正智院
 - 重文 舞楽装束類のうち梅松文様水干 金剛峯寺

- 歴史資料
 - 重文 高野版板木 金剛三昧院

※文化財の保存上、展示品が替わる場合があります。
※期間中、一部展示替を行います。
※コロナの感染状況により、会期の変更、休館、拝観制限を行う場合があります。

「高野山の名宝——数字と高野山——」

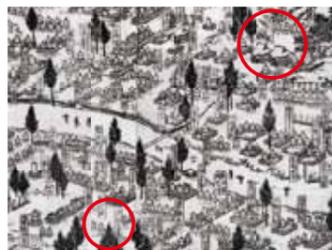
連載

高野山の古建築

第三十九回

重要文化財 清浄心院 上杉謙信霊屋

鳴海 祥博



「紀伊国名所図会」の上杉家墓所 右上に「上杉一家」とあり、2棟の霊屋が描かれている。左下には宿敵武田信玄の墓石があり、参道を隔て両雄が今も対峙している。



上杉謙信霊屋の全景 正面3間、側面2間、入母屋造り、向拝付き、檜皮葺の霊屋である。右手には空地があつて、かつてはそこに、養子「上杉景勝」の霊屋があつたようである。



霊屋の木鼻詳細 よく見ると、右と左で木鼻の輪郭が全く異なっている。2棟あつた霊屋の部材を使って一つの建物に改造した事を物語っているようである。様式的には左の方が古式である。



正面中央間の墓股 墓股の彫刻は「貝尽くし」である。この「貝尽くし」の図像には、どのような意味が隠されているのだろう。謎である。

この大胆な修理がいつ頃行われたのか明確には出来なかつたようですが、幕末から明治にかけての頃ではないかと考えられています。

この上杉謙信霊屋が最初に建てられたのが何時なのか、建物からは明確には出来ませんが、上杉家の古記録には、天正十六年(一五八八)に景勝が「高野山に詣り養父謙信の廟を建立す」とあるので、現在の「上杉謙信霊屋」は、恐らくこの時のものと考えられています。また元和九年(一六二二)には景勝の霊屋が建てられたと記録にあり

ます。建物の隅柱の頂部に架けられた頭貫の木鼻をよく見ると、同じ柱に取り付いているのに、右と左で木鼻の輪郭が全く異なっています。二棟の建物の部材が用いられた証拠のように思えます。比較的装飾の少ない霊屋です。比較的装飾の少ない霊屋ですが、正面中央間に据えられた墓股の彫刻は注目です。その彫刻の題材は、巻き貝、二枚貝、そしてアワビやヒトデのように見えるものもあります。霊屋の装飾に「貝尽くし」の図案が用いられているのは、どのような寓意が込められているのでしょうか。是非謎解きをしてみてください。

信の後を継いだ養子の「上杉景勝」の法名が「覚上院殿法印権大僧都宗心」なので、恐らくここに置かれた「宗心」銘の石碑は「上杉景勝」のものだと想像します。現在の上杉謙信霊屋には、謙信・景勝、父子の霊が安置されていることになりました。江戸時代末期、天保九年(一八三八)に出版された「紀伊国名所図会」の奥之院参道の様子を見ると、「上杉一家」として同じ建物が二棟描かれています。この事から、江戸時代の終わり十九世紀の中頃までは、謙信と景勝それぞれの霊屋が並んで存在していたと考えられています。そして上杉家の記録では二棟の霊屋の内、向かって左、西側が謙信霊屋、右手東側が景勝霊屋とされています。五十年ほど前、この霊屋が修理されたとき、ここには異なる建物の部材が入り交じって用いられていることが確認されました。この事から、大きく痛んだ二棟の霊屋が解体され、健全な部材を用いて一棟の建物に建て替えたと考えられています。同規模の建物だったので、そのような修理が可能だったのでしよう。この修理によって、一棟の建物に二基の石碑が安置されることになったと思われ

高野山の生き物

第五回

モリアオガエル(早くなる産卵)

高野山寺領森林組合 西田 安則



モリアオガエル

梅雨空が続く六月、森に囲まれた池からクウルクウルコ、コ、コ、コと聞こえる鳴き声が聞こえてきますが、それがモリアオガエルの恋の歌です。周辺の木々を見ると白いメレンゲ状の塊がぶら下がっています。モリアオガエルの卵です。

モリアオガエルは、その名前からもわかるように深い森に棲んでいるアオガエルの仲間です。アオガエルの仲間には高野山では、シユレーゲルアオガエル、カジカガエルと三種類生息しています。モリアオガエルは、雄で四〜六cm、雌で六〜八cmになります。因みによく似たシユレーゲルアオガエルは、雄三〜四cm、雌四〜五cmと一回り小さいです。また、三種ともカエルの仲間では美声の持ち主で、特にカジカガエルはフルートのような音色で有名です。

モリアオガエルは、和歌山県では高野山とその周辺でしか生息していないと言われていましたが、最近では

他の地域でも確認されるようになってきました。人為的に移入された所もあると思いますが、戦後伐採され、その後植栽または自然に育った森林が成熟期になり、モリアオガエルが息しやすくなったからかもしれません。そのためか、川の澱みの周辺の木々や林道横の集水枡でも産卵を確認しています。

モリアオガエルの生息が高野山から自然拡散していくことはうれしいことですが、一つ気になることがあります。それは、サブタイトルにもなっていますが、年々産卵期が早くなっています。今年も昨年と同様に産卵が始まりました。これが、地球温暖化とどういふ因果関係があるかわかりませんが、今後注意して見守っていききたいです。

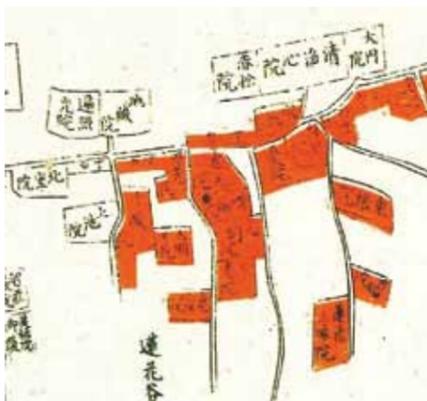


図4 「高野山焼山全図」(火災範囲東側部分・蓮花谷) ●印は出火地点

この火災は高野山の火災史上、面積でいうと最大級といえ、子院や町

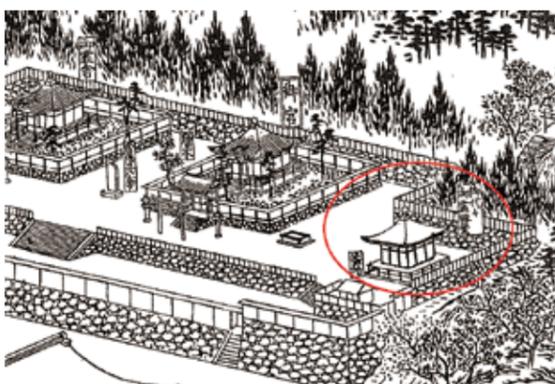


図5 「紀伊国名所図会」徳川家霊台(家康廟・秀忠廟)・位牌堂部分(○印)



図6 重要文化財徳川家霊台・位牌堂跡の礎石



図7 伽藍・国宝不動堂 かつては一心院谷に所在した。

結果的に、火災による被害は二日間「焼失七捨七ヶ寺院町家焼失カゾエ難ク」と記され(図2)、子院だけでなく、町家(本図「丁カ」と記される部分)も甚大な被害を受けたようです(図4)。

以後、長い年月をかけ、高野山は多くの寺内の什物や文化財も灰燼に帰しました。その様子を思い起こすと、山上は目を被いたくなるほどの惨憺たる光景で、当時の人々の落胆ぶりは相当のものであったと察せられます。

「災害は忘れた頃にやってくる」と

(鳥羽正剛)

た場所には、国宝 不動堂(明治四十一年(一九〇八)に伽藍移築)が建っていました。この古絵図からは、これらの文化財が火の手が迫る寸前で焼失を逃れたことがわかります(図3)。

以後、長い年月をかけ、高野山は多くの寺内の什物や文化財も灰燼に帰しました。その様子を思い起こすと、山上は目を被いたくなるほどの惨憺たる光景で、当時の人々の落胆ぶりは相当のものであったと察せられます。

現在もこの火災の傷跡を伝える場所があります。徳川家霊台がその場所です。火災時、徳川家霊台には、家康廟 秀忠廟のほか、南東側に位牌堂が建てられていました。「紀伊国名所図会」(文化九年(一八一二)から嘉永四年(一八五二)編纂)からは、建物の上部構造の様子を知ることができ(図5)、また現地には、当時の建物の礎石が残されています(図6)。

今回ご紹介した古絵図は、歴史資料として大変貴重ではありますが、二度とこのような火災を起こさないよう、火災の状況を詳細に示し、また位牌堂の礎石が焼失時のまま保存されているのは、後世の私たちに防災意識の自覚、注意を喚起する、先人からの大切なメッセージが込められているのです。

未来へのメッセージ

「古絵図で巡る高野山探訪」(その十四)

火災③

近代最大級の火災

高野山の近代では、明治二十一年(一八八八)に大規模な火災がありました。当時の様子を窺うことができます。当時の様子として、「高野山焼山全図」(明治二十一年 日野西真応氏蔵)という古絵図が伝わっています。「定価四銭」と記され、明治二十年頃の一銭は現在の二百円くらいですから、八百円くらいで当時販売されて

甚大な被災状況

二十三日は、「西ノ●(印)寺院ヨリ發火(図2)とあり、現在の南院の北側付近から出火したことが記されています。この場所の北側に接して、火災を逃れた「蓮花院シヨカツ」と記される場所には、重要文化財徳川家霊台の徳川家康廟と秀忠廟があり、また左下の「不動堂」と書かれ

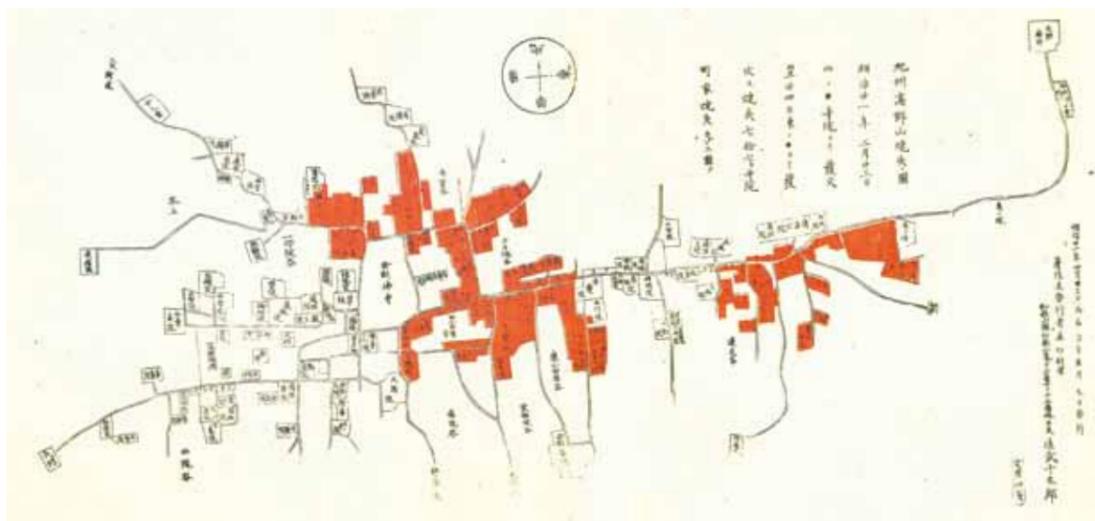


図1 「高野山焼山全図」(明治21年(1888) 日野西真応氏蔵)

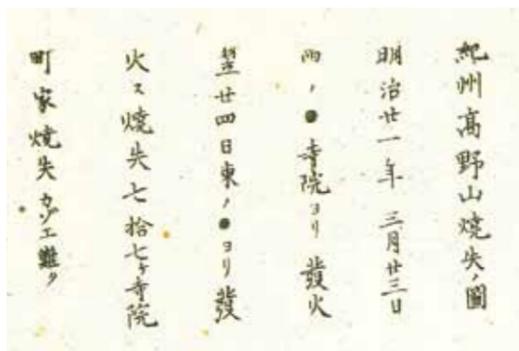


図2 「高野山焼山全図」 火災記録部分

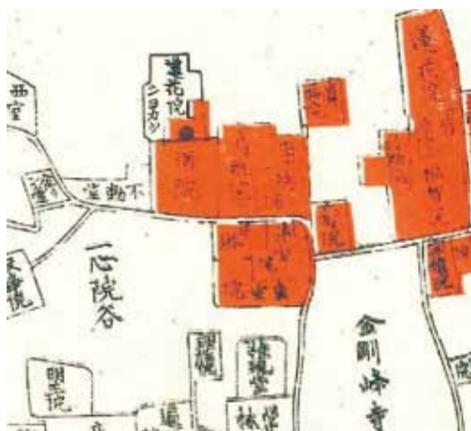


図3 「高野山焼山全図」(火災範囲西側部分・一心院谷) ●印は出火地点